

全視情協 / ないーぶつうしん	1999/8/17
<b>NAIIV</b> 通信	<b>No.22</b>
発行 発行責任者 川越 利信	
<b>全国視覚障害者情報提供施設協会(全視情協)</b>	
(社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会 情報サービス部会)	
事務局 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-13-2 日本ライトハウス盲人情報文化センター内	
Tel.06-6441-0015 Fax.06-6441-0039 E-mail:HBD00035@nifty.ne.jp	

### 主 な 内 容

- 全視情協、新たな出発 ..... 1
- 全視情協総会報告 ..... 2
- 平成11年度事業計画 ..... 9
- 平成11年度委員会活動計画 ..... 11
- 平成11～12年度理事・委員会委員名簿 ..... 13
- 常任理事会報告 ..... 15
- 全視情協神戸大会案内 ..... 18
- 介護保険制度における通知等の点訳等の仕組み ..... 22
- 新会員紹介「ひなぎく」 ..... 23

## 全視情協、新たな出発

-- 平成11年度全視情協総会開催される --

平成11年6月23日から、京都市の新・都ホテルで、平成11年度日盲社協(日本盲人社会福祉施設協議会)大会が開催され、初日の23日(水)全視情協総会を兼ねた情報サービス部会など6事業部会が行われた。

この全視情協総会(情報サービス部会)において、視覚障害者を情報で支援しているボランティア・グループや類縁機関も本会の活動に参画しやすくするために会則を変更し、組織名称も「協議会」を「協会」に変更することが決議された。高度情報化社会における新たな福祉の時代に対応することのできる情報支援事業の専門機関をめざして、全視情協は新たな出発をすることとなった。

## 全視情協総会（日盲社協情報サービス部会）報告

日時 平成11年6月23日(水) 14:50~17:50  
会場 新・都ホテル

議長 西田洋一（熊本県点字図書館館長）  
副議長 菊野幸雄（鹿児島県点字図書館館長）  
記録 金津和栄（ライトハウス・ライブラリー館長）  
（出席42施設、委任状29施設で、あわせて71施設）

まず最初に、総会の決議に関しては、各施設代表1名の挙手で行うことを確認。

続いて、去る6月9日（水）急逝された大前陸典氏（前・神戸市立点字図書館館長）のご冥福を祈って全員で黙とうをささげた。大前氏は、昭和48年、京阪神点字図書館連絡会の発足に尽力され、館間協力、今日でいうネットワークの先駆けのお一人でした。

（川越会長あいさつ）

現在、社会福祉基礎構造改革に伴い、社会福祉事業法の改正が進められており、この改正の一環として、視・聴覚障害者情報提供施設の「機能拡充」が提案されている。これに関して、全視情協は積極的に提言していく必要がある。

視覚障害者にとって今日の高度情報社会は、即時性の高い情報（新聞など）にアクセスできない、点字化・音声変換に時間を要する、情報入手に第三者を介している、などの問題が未解決の状態にある。社会福祉基礎構造改革がめざしているような、個人の尊厳を守り、利用者がサービスを選択していく（事業者と対等の立場に立つ）ためにも、視覚障害者に十分な情報提供が必要であり、それをどう保障していくかを考えなければならない。

現在の身体障害者福祉法第33条の考え方の基本は「オフライン」である（視覚障害者は点字・録音図書、聴覚障害者はビデオカセット）。今日のインターネット等のマルチメディア時代にはオフラインだけでは対応不可能である。そこで、オンライン・サービス等によりマルチメディアに対応できるような施設機能の拡充を提言していく必要がある。これは我々の責任でもある。

また、地方財政の危機が叫ばれている中で、各施設はともすれば自分たちの施設や地域でのサービス充実のみを考えがちだが、それでいいのだろうか。苦しい時代だからこそ、一地域や小さな施設だけではできないことや普遍的なものは全国で共有するという考え方が必要なのではないか。

ネットワークの構築は視覚障害者の情報サービスの質を左右する。大事にしなければならない。そして、それによって全視情協がより強い組織に発展できればと願っている。

この総会の重要議題である会則改正も、これらをふまえたものである。目的は2つ。ひとつは視覚障害者への情報サービスの充実をはかること、ふたつ目はデジタル化・マルチメディア化の時代に対応できる組織にする（組織強化をはかる）ことである。

議題にそって審議された事項は以下の通り。

## 1. 平成10年度事業報告、決算報告

### 事業報告

#### 概括報告（川越会長）

- ・平成9～10年度は、視覚障害者情報提供施設の機能と役割の抜本見直しをテーマに、ネットワーク・システムにおける点字情報の充実と、音声情報の新たな構築を行った。「てんやく広場」特別委員会を常設委員会とし、「ないーぶネット」を全視情協のネットワークの要と位置付けることができた。音声情報の面ではDAISYの普及をめざし、リハ協（日本障害者リハビリテーション協会）のご尽力でデジタル録音図書の基盤整備が進んでいる。
- ・運営基準改正の検討  
点字出版部会との話し合いの場を持った。年度末には日盲社協を通して厚生省へ案を提出。目下、意見交換中。
- ・情報問題研究委員会  
日盲社協と日盲連の共同事業として進んでいる。
- ・著作権の取り組み  
著作権法第37条では高度情報社会には対応できない。新刊本だけでなく、新聞、雑誌等の情報が必要。いろいろな機関がサービスできるようになれば情報環境が豊かになり、視覚障害者にとってはありがたい。37条はこれを阻んでいる。障害者放送協議会では著作権をテーマに活動している。11年6月4日には衆院会館でシンポジウムを行い、文化庁とも会談をもった。平成11年の秋の大会で勉強したい。
- ・弱視者対策  
成果なし。
- ・専門性の確立  
点字指導員講習会、音訳指導技術講習会を開催した。  
なお、日盲社協として、資格認定のための委員会を設置することが決定した。（平成11年6月22日、日盲社協理事会）
- ・社会啓発  
藤野副会長、金森運営委員のご尽力で「視覚障害者介護技術シリーズ」（全3冊）を発行。好評発売中。
- ・その他  
DAISY普及の一環として、CD郵送ケースの開発に取り組んでいる。樫浦勝彦氏（ボランティア）のご尽力による。（現在製作段階に入っている。）

常設委員会報告（当日配布資料による）

（追加報告）

- サービス委員会 --- 10年度の大がかりな調査については現在集計中。
- ネットワーク事務局 --- 10年7月からの設置。6000タイトル、加盟110施設。  
未加盟施設はぜひ参加を検討してほしい。

ブロック活動報告（当日配布資料による）

決算報告

監事である樋口悦朗氏（神奈川県ライトセンター所長）より、6月12日（土）神奈川県ライトセンターにおいて会計監査が行われ、適正に執行されている旨、報告があった。

会場より「ないーぶネット」決算書に関して質問が出されたが、後日回答することによって、平成10年度事業報告ならびに決算報告は原案通りに承認された。

2. 会則改正について

（説明：運営委員会・盛田義弘氏（石川県視覚障害者情報文化センター所長））

平成10年7月の「ないーぶネット」発足にともない、「ないーぶネット」事務局の設置や、視覚障害者への情報支援事業を行っているボランティア・グループ、類縁機関の参画を容易にすることなどを盛り込んだ会則改正を行った。

今回の改正では、これまでの会則のわかりにくい点をあらため、全体を整理統合し、体裁を整えた。会をスムーズに運営するため、会の最終責任機関や運営方法を明らかにし、将来の法人化をめざした第1段階ともいえるものである。

改正のポイントは以下のとおり。

- ・名称（第1条） --- 法人化をめざし、「協議会」を「協会」にあらためる。
- ・目的（第3条） --- 基本的には同じだが、より具体的になった。
- ・事業（第4条） --- 具体的になり、1項目ふえた。「啓発」はより広い範囲のサービスを表したものである。
- ・会員（第5条） --- 施設会員に加えて、情報支援事業を行う団体等の参画を可能にした。また、財政援助のための賛助会員（第17条）を設けた。
- ・役員とその職務（第7条、第8条） --- 運営委員を、理事・常任理事にあらため、理事・常任理事で構成する理事会が最終責任を持つ。理事は会務を審議する。常任理事は会務を審議し、執行する。
- ・会議（第9条） --- 会議は3つ。総会（第10条）の会則改正では会員の4分の3以上の出席と出席者の3分の2以上の議決が必要。臨時総会もある。理事会（第11条）は、旧・運営委員会。常任理事会（第12条）は、旧・企画委員会。

(その他、今回の改正で新しく加わったもの)

- ・ 参与 (第16条) --- 退職等による役員交代時に当分の間、協力してもらうことができる。
- ・ 事務局の設置 (第22条)
- ・ 4つの規程 (専門委員会に関する規程、賛助会員に関する規程、入会・退会に関する規程、会費に関する規程)

以上の説明の後、質疑が行われた。特に、総会の開催時期について活発な論議が行われ、総会は会員の総意を確認する場であり、今後加盟が増えるであろうボランティア・グループの立場をも考慮しなければならないことなどがあらためて認識された。

最後に、挙手により、新会則が承認された。

### 3. 平成11年度役員、事業計画、予算について (説明：川越会長)

配布資料にそって説明され、承認された。

事業計画の最後に、法人化をめざす項目が追加された。

また、予算については、年度途中で見直すこととなった。

### 4. 全視情協大会について (説明：藤野副会長、神戸市立点字図書館・杉本佳史氏)

(詳細は本誌P18~P21、プログラムはP24に掲載)

参加申込については、7月中旬頃に案内状発送。

会場は余裕のあるスペースを確保している。

特に今年度は次のような、前半・後半のみの参加形態も可能とした。

主として施設長	13日(水)朝~14日(木)12:00
主として職員	14日(木)朝~最終

このあと、神戸市立点字図書館の児玉和之館長よりあいさつがあった。

5. CD郵送ケースに関して（報告：川越会長）

DAISY普及促進の一環としてCD郵送ケースの開発を行ってきた。現在、製造にとりかかっている。9月中にはり八協によって会員施設に提供される予定。仕様決定にあたり、多くのユーザー、役員、委員にご協力いただいたことを心から感謝します。

（榎浦勝彦氏より報告と試作品の提示）

今回の郵送ケース製作にあたってはボランティアとして参加している。現在、金型製作が進んでおり、7月上旬に試打ちを行う予定。金型は2つ作っている。試作品をサンプルとして1つずつ各施設に配布する予定。

基本構想

1. ユーザーの要求をみたすもの
2. 国際競争力、価格
3. 現在有効な資源を活用できること（タイトルカバー、宛名カード入れを現在と共有化）
4. 将来のシステムを前倒しで使えるようにすること（バーコードによる管理対応）

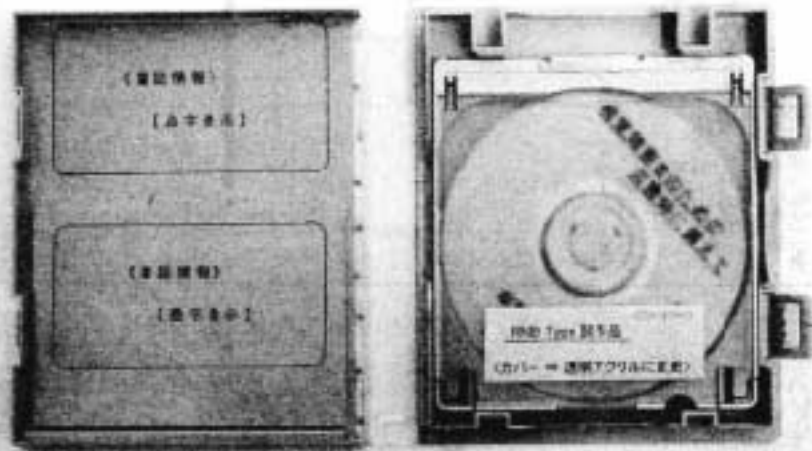
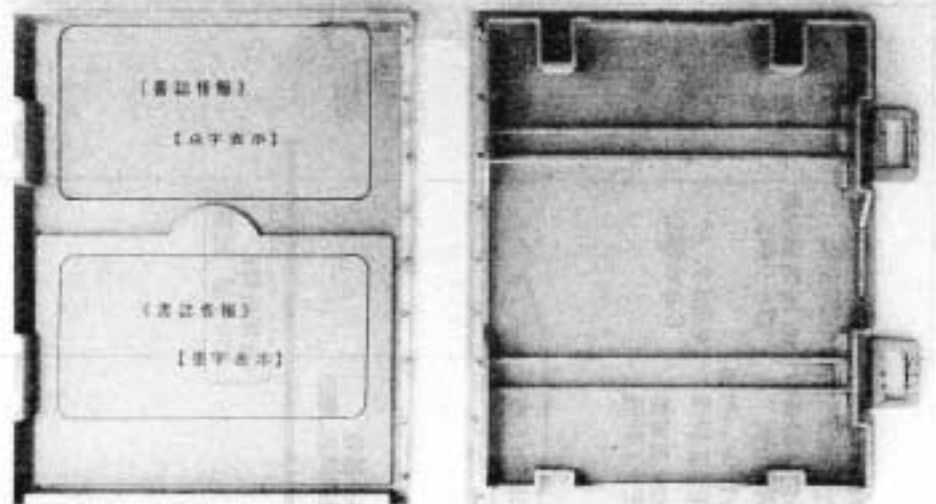
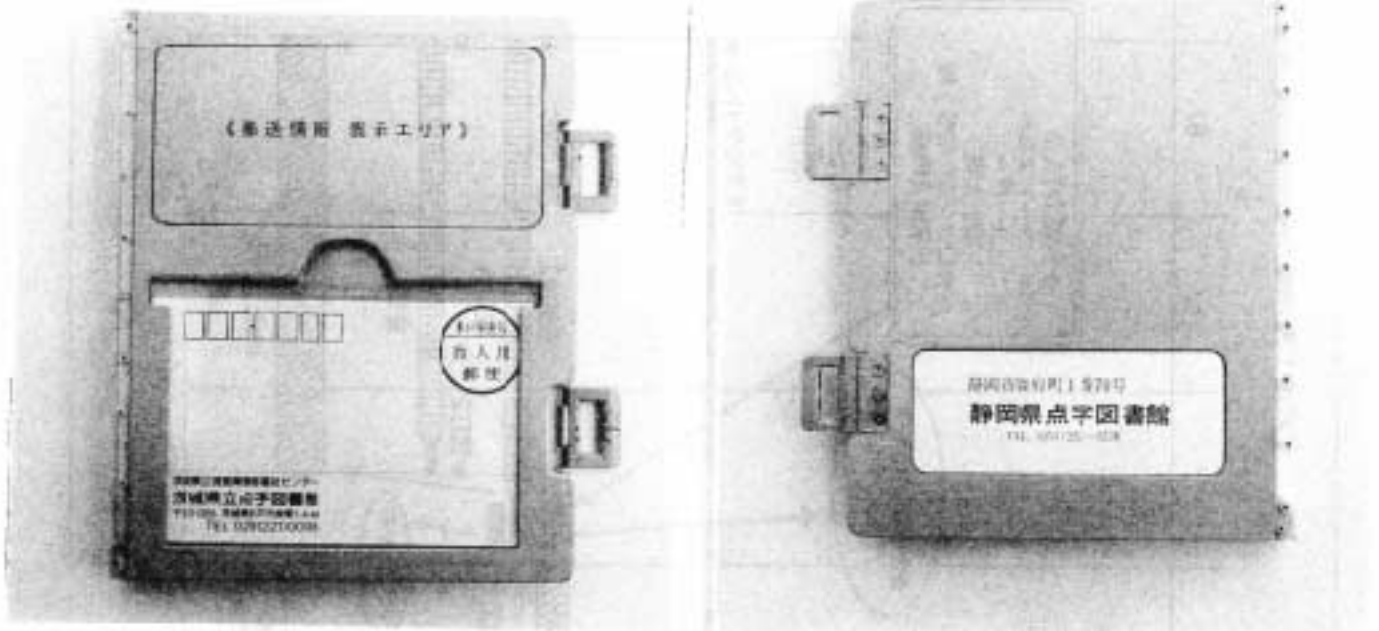
（CD郵送ケースと製作スケジュールについてはP7～8に掲載）

6. 書籍の扱いに関して

平成11年4月より、全視情協発行の書籍販売を（株）大活字に委託した。

これまで書籍管理事務局を担当していただいた名古屋盲人情報文化センターに、全視情協から感謝状を贈呈した。

CD 郵送ケース(色はうすいグリーン)



CD 郵送ケース開発・製作スケジュール										
	99-1/	2/	3/	4/	5/	6/	7/	8/	9/	
イベント	/14 第2回 総合打合せ ・全視情協 役員 ・" サービス委 ・" 録音委 ・ユーサー ・設計担当 ・メーカー 3社	/25 運営委 メーカー 1次決定	/4 サービス委 仕様評価 /9,10 録音委 現場評価 /17 サービス委 モデル評価 /29 運営委 モデル評価  250タイトル 配布	/13 サービス委 決定評価 /16 実新対策 ロック設定 /28 シナノケンシ Caddy確認	/1 常任理事 報告 /9 再見積 メーカー最終決定 /19 製造指示 /20 面承認-1	振動耐久試験 シナノケンシに依頼	金型打立会 ・サービス委員 ・ユーサー ・設計担当 ロックの作動性 他 出来映え確認	250タイトル		
DAISY 制作情報										
郵送ケース 製造日程				製造指示 /19 図面承認-1 /20	図面承認-1 /20 金型制作 2面同時加工	調整 試打1 サンプル配布	成型加工 250,000ヶ 金型-A 金型-B	供給、送付		
				実新対応 ロック部 設定		高匠登録 申請準備				



日盲社協情報サービス部会  
全国視覚障害者情報提供施設協会  
(全視情協)

平成11年度事業計画

平成11～12年度の目標、基本方針

基本テーマ(平成11～12年度)

『録音図書のデジタル化と「ないーぶネット」の充実』

活動計画

(1) デジタル録音図書(DAISY)の普及(担当:録音委員会)

システム変更に関する年次計画の策定

職員・ボランティアの研修システムの確立

製作・サービスの関連機器・用具の充実と書庫スペースの確保

新刊図書用集中処理センター設置の検討

普及対策の一環として、日盲連・リハ協等と協議機関を設け、共同して普及を図る。

録音委員会がリードしてDAISYの普及にあたるよう、同委員会の強化を図る。

(2) 「ないーぶネット」の充実(担当:ネットワーク委員会)

2000年10月を目標に、「ないーぶネット」のインターネット化を進める。開発は、ネットワーク委員など全視情協選出委員若干名と外部委員とからなる開発委員会を中心に進める。なお、外部委員は、日盲社協・日盲連とも相談の上、決定する。

ネットワークを全視情協会員の情報共有の場として位置づけ、幅広い活用を図る。

点字データの充実とあわせて、ABO1・点字出版図書情報等、書誌情報の充実を図る。また、DAISY図書を含めた音訳図書情報の共有化を促進するための広報活動と研修を進める。

- (3) 「書誌データ管理システム」の完成 (WINDOWS 版) (担当: ネットワーク委員会)  
ワーキング・グループを設置し、WINDOWS版の完成をめざす。
- (4) デポジット・ライブラリー構想 (担当: 理事会)  
平成10年11月に実施したアンケートの結果を活用し、今後の手続き等について  
常任理事会で審議し、日盲社協を通じて厚生省に協力を要請する。
- (5) 運営基準改正にむけた取り組み (視覚障害者情報問題研究委員会への協力)  
(担当: 理事会)  
現在、日盲社協経由で、厚生省へ提案中。今後、日盲連・日盲社協とともに厚  
生省との調整を行う。
- (6) 著作権問題研究 (担当: 理事会)  
著作権問題の調査研究を進める。  
なお、障害者放送協議会の著作権問題を考える委員会 (放送研究委員会) に本  
会の研究成果を報告・提言する。
- (7) 弱視者対策の検討 (担当: 理事会)  
可能な部分から手掛けていくという方向で進めたい。  
社会啓発運動  
フォント開発の研究 (濁点、拗音など)  
秋の全視情協大会において、拡大図書・拡大読書機等の展示を行う。
- (8) 専門性の確立と社会啓発 (担当: 録音委員会・点訳委員会)  
音訳・点訳講習会における資格認定の見直し  
『視覚障害者介護技術シリーズ』の発行  
「初めての点訳」「初めての音訳」「初めてのガイド」の普及
- (9) 法人化に向けて取り組む (担当: 理事会)

## 平成11年度委員会活動計画

### サービス委員会

1. 第17回全国視覚障害者情報提供施設実態調査（毎年の実施が妥当かどうかを含め抜本検討を行う）
2. 上記調査の集計・分析及び報告書作成
3. 「点字雑誌一覧」「録音雑誌一覧」「サービス一覧」編集発行
4. その他

### 録音委員会

昨年、デージー製作用パソコンが配布され、会員各施設でも今春からCD録音図書・雑誌の貸出が始まる。

録音委員会では、これらの動きを受けて、「指導員資格認定講習会」開催、「CD録音図書製作基準」「各種ガイドライン」の検討をすすめ、将来の「レコーディング・マニュアル」改訂にそなえたい。

1. 音訳指導員資格認定講習会の開催・準備
2. 「CD録音図書製作基準」の作成
3. CD録音図書製作に関する各種ガイドラインの検討
4. その他デジタル化に必要な活動

### 点訳委員会

1. 平成11年度点字指導員講習会（指導員研修会）
 

要綱等	発送済み	
作業日程	5月上旬	案内状発送
	5月下旬	申し込み締め切り
	6月上旬	受講者決定・通知
	6月中旬	課題文審査
	6月下旬	受講者最終決定
	8月25日(水)～27日(金) 講習会実施	

2. 校正問題集編集

平成10年度に発行できなかった「校正問題集」の編集作業を引き続き行う。

3. 点訳委員会開催

6月中旬(各1日) 関東小委員会(課題文の審査)

中部小委員会(同上)

6月下旬(2泊3日)点訳委員会

(1) 受講者の決定

(2) 講習会のための課題文審査

(3) その他、講習会準備

10月中旬(2泊3日)点訳委員会

(1) 指導員講習会の反省

(2) 校正問題集チェック

1月(2泊3日) 点訳委員会

平成12年度点字指導員講習会準備

3月(1泊2日) 点訳委員会

平成12年度点字指導員講習会準備

ネットワーク委員会

「ないーぶネット」関係

新システム開発の促進

システムそのものの開発検討は新システム開発小委員会が行う。

新システム開発の結果、全視情協のオンライン・ネットとしての活用とあり方の検討。

新システムに伴う、各種規則などの検討、整備

全視情協会則と、「ないーぶネット」の規約との整合性の検討と改定

他委員会との調整

ネットワーク整備のための調整

サービスの観点から見た目録検索の検討

録音担当者の目録提供への参加促進

講習会の開催

7月5日(月)～6日(火)、名古屋において、職員・ボランティア・利用者を対象とした「ないーぶネット研修会」を開催する。

内容はWindowsの基本、新システムの概要ほか。

全国視覚障害者情報提供施設協会  
(全視情協)

平成11~12年度 理事・委員会委員名簿

会 長	川越 利信	日本ライトハウス(常務理事、情報担当)
副会長	藤野 克己	視覚障害者生活情報センターぎふ(館長)
	田中 徹二	日本点字図書館(館長)
監 事	千田 米蔵	千葉点字図書館(館長)
	樋口 悦朗	神奈川県ライトセンター(所長)

理 事 ( はブロック代表、 は常任理事)

川越 利信	日本ライトハウス(常務理事、情報担当)	日盲社協 (理 事)
後藤 市郎	北海点字図書館(館長)	(理 事)
藤野 克己	視覚障害者生活情報センターぎふ(館長)	(評議員)
田中 徹二	日本点字図書館(館長)	(評議員)
金津 和栄	ライトハウス・ライブラリー(館長)	(評議員)
菊野 幸雄	鹿児島県点字図書館(館長)	(評議員)
西田 洋一	熊本県点字図書館(館長)	(評議員)
橋本 宗明	カトリック点字図書館(館長)	(評議員)
正木 保憲	香川県視覚障害者福祉センター点字図書館(館長)	(評議員)
水口 武夫	京都ライトハウス点字図書館(館長)	(評議員)
茂木 敏子	群馬県立点字図書館(館長)	(評議員)
盛田 義弘	石川県視覚障害者情報文化センター(所長)	(評議員)

専門委員会 ( は委員長、 は副委員長)

サービス委員会

横澤 忠	岩手県立点字図書館(館長補佐)
岩井 和彦	日本ライトハウス盲人情報文化センター(館長)
内山 敏子	視覚障害者生活情報センターぎふ
川崎 弘	千葉点字図書館
こめだ 米田 健一	宮崎県立視覚障害者センター
白石 卓也	愛媛県視聴覚福祉センター
檜山 知子	栃木県身体障害者福祉会館

(第16回実態調査報告書作成まで、旧委員との共同作業とする)

点訳委員会

水谷 吉文	天理教点字文庫
染谷 洋子	JBS日本福祉放送
高橋 恵子	千葉点字図書館
山田 智直	視覚障害者生活情報センターぎふ
矢部 弘毅	京都ライトハウス点字図書館
坂西 <sup>ばんざい</sup> ひとみ	東京ヘレンケラー協会点字図書館
小菅 一代	上野点字図書館

録音委員会

恵美三紀子	JBS日本福祉放送（代表）
矢口 町子	茨城県立点字図書館
兄父由紀子	福井県視力障害者福祉協会点字図書館
熊谷 成子	静岡県点字図書館
毛利 仁美	福岡点字図書館
和田 尚	石見身体障害者厚生センター
姉崎 久志	神奈川県ライトセンター

「デジタル録音図書製作基準」プロジェクト委員

村井 晶人（日本ライトハウス盲人情報文化センター）

天野 繁隆（日本点字図書館）

恵美三紀子（録音委員会委員長）

ネットワーク委員会

後藤 健市	北海点字図書館（副館長）
岩井 和彦	「ないーぶネット」事務局長
吉弘 裕子	鹿児島県点字図書館
襟川 茂	京都ライトハウス点字図書館
蕪木 <sup>かぶらぎ</sup> 克行	日本点字図書館
井上 憲一	JBS日本福祉放送

ワーキング・グループ「書誌データ管理システム（リマシー）」担当委員

荒川 朋子（石川県視覚障害者情報文化センター）

村井 晶人（日本ライトハウス盲人情報文化センター）

水野 舜（金沢工業大学教授）

（システム完了時に解散する）

委員会活動における方向性、活動プログラム、全体バランス等の調整・相談は、常任理事会が担当する。

## 平成11年度第1回常任理事会 報告

日時 平成11年7月8日(木)～9日(金)  
会場 日本ライトハウス盲人情報文化センター  
出席 川越、藤野、田中、金津、盛田 (欠席：後藤)

## 1. 日盲社協大会の事後処理

- (1) 新会則・規程類の確認を行う。新会則に、入退会申込書等を添付して会員施設に送付する。
- (2) 補正予算に事務局経費を計上する。  
また、収入の部に「会費」「賛助会費」の項目を設ける。
- (3) 全視情協会員名簿を作成し、会員施設に送付する。

## 2. 全視情協神戸大会について

神戸市立点字図書館の児玉和之館長と杉本佳史氏が同席。

- (1) 「会議の内容について」という文書を加えて、大会案内・参加申込書を早急に発送することを確認した。
- (2) 主管施設に兵庫県点字図書館を加える。
- (3) 全体会や分科会の持ち方について協議。役割分担については次回の常任理事会(9月7日(火))で決定する予定。神戸市立点字図書館にも出席を依頼した。

## 3. 「ないーぶネット」について

岩井和彦「ないーぶネット」事務局長が同席。

- (1) 佐賀市立図書館、藤沢市立点字図書館をDM会員からUM会員に変更することを承認した。
- (2) 当面は「てんやく広場」の入会審査マニュアルに沿って処理するが、今後、早急に、「ないーぶネット」としての入会審査マニュアルを作成する必要がある。
- (3) 会員の種類の検討  
全視情協のネットワークである以上、全会員施設にネットワークに加入してもらう必要がある。そのため、点訳データを扱わない会員(目録の登録・検索、通信)についての検討をネットワーク委員会に依頼する。

## 4. CD郵送ケースについて

樫浦勝彦氏から現状報告していただいた。また、以下のことを決定した。

- (1) 会員施設に、これまでの経過説明とあわせて、ケースの見本品を送付する。
- (2) 2500タイトルは郵送ケース付きで配布される。

- (3) 別途購入を希望される施設等への供給は10月から。  
(会員価格150円、会員外価格200円)
- (4) 全視情協の品質管理担当者は、サービス委員長の横澤 忠 氏(代理:工藤孝雄氏)
- (5) 9月7日(火) 17:00から完成評価会を行う。

## 5. DAISYへの取り組みについて

技術助言者として村井晶人氏が同席。

- (1) 10月14日(木)~15日(金) アメリカで開かれるコンソーシアム総会へJBS日本福祉放送から恵美三紀子氏と他1名(技術と英語に強い人材)を派遣し、LPスタジオプロの最新情報を収集して全視情協としての今後の対応を決定する材料とする。
- (2) 製作基準については、案をとりまとめ、8月上旬に完成させ、配布する。そして、神戸大会の分科会で質疑応答を行う。
- (3) リハ協から配布されるCD2500タイトルを、全視情協として保管する必要がある。保管方法については、日盲社協・日盲連とも相談の上、今後、検討していく。
- (4) 全視情協として、カセットテープからCDへの切替時期を明確にしてほしいとの要望が寄せられている。CD切替のためには視覚障害者がプレクストークを所持することが必要である。そのため、プレクストークが日常生活用具指定を受けられるよう、厚生省に要望することとした。当面、緊急の措置として日盲社協経由で厚生省に次の要望を行う。

日常生活用具指定までの過渡的措置として、緊急に、プレクストーク3万台を全国の視覚障害者に貸与・配布していただきたい。

全国の視覚障害者情報提供施設がデイジー図書製作体制を整えるために、アナログシステムからデジタルシステムへの移行に必要な設備整備を補助していただきたい。

デイジー図書普及のための委員会の設置ならびに製作技術の普及向上のための職員研修事業費を補助していただきたい。

## 6. LIMASYへの対応について

書誌データ管理システム・ワーキンググループを代表して村井晶人氏が同席。

- (1) ウィンドウズ版配布後のサポートについて、石川県視覚障害者情報文化センターで対応してもらえないか検討を依頼。
- (2) 「ないぶネット」の新システムにつながるよう、両者の連絡を密にする。
- (3) LIMASYからLIMASYへのデータ取り込みは、石川県視覚障害者情報文化センターが有償で引き受ける方向で検討中。



## 7. 常任理事会の役割と責任体制

今後、常任理事会が全視情協の執行機関としての役割を果たしていく。  
委員会活動の方向性、活動プログラム、全体バランス等の調整・相談を行う。

### (1) 理事会の担当事業分担

デポジット・ライブラリー構想：田中

全視情協神戸大会の企画：藤野

運営基準改正に向けた取り組み：盛田

著作権問題研究：水口

弱視者対策の検討：西田

法人化への取り組み：川越

日盲社協の委員会への協力

点訳指導員資格認定：藤野

就労委員会：橋本

### (2) 次回常任理事会：9月7日(火) 10:00~17:00

## 8. 表彰規程について

盛田理事から提案があり、全視情協に大きな功績のあった人に対して、特別功労者としての表彰規程を設けることとし、理事会に諮ることとした。

## 9. 「ないーぶ通信」の発行について

少なくとも年4回発行する。(発行月は原則として、4月、7月、10月、1月)  
常任委員が編集委員となり、編集事務は正井和子(全視情協事務局)・染谷洋子( JBS日本福祉放送)が担当する。

## 10. 「初めて」シリーズの点字データアップについて(報告)

(1) 「初めてのガイド」は、名古屋盲人情報文化センター点字出版所の名前で「ないーぶネット」にアップする。

(2) 「初めての点訳」は墨字版の2刷に従って点字データの修正を行った上、名古屋盲人情報文化センター点字出版所の名前でないーぶネットにアップする。点字本は今まで通り名古屋で販売する。価格差保障制度を利用すれば視覚障害者にとって有利であることを全視情協として広報する。

(3) 「初めての音訳」は「ないーぶネット」事務局でデータ化とアップを考える。

## 第25回全国視覚障害者情報提供施設大会(神戸大会)

### 開催要項

**目的** 現在、社会福祉基礎構造改革の一環として、社会福祉事業法の抜本的改正が進められており、日本の障害者施策は50年ぶりに大きく変革されようとしています。視覚障害者への情報による支援事業もまた、時代の流れに沿うべく変革を求められています。

一方、情報の高度化は日々激変し、進展しています。デジタル化ならびにマルチメディア化が進み、通信と放送の融合による高度情報化社会がまさに到来しつつあります。来る21世紀は、新たな「福祉」と高度化された「情報」の時代である、と予測されます。

このような時代性に鑑み、視覚障害者自身が、必要とする情報を自由かつ十分に受発信し、福祉サービスを楽しむことができるように、そして視覚障害者の社会参加を実現するために、情報による支援の方策を強化し、充実させなければなりません。

本大会は、視覚障害者に対する情報支援策の強化・充実を図るために、デジタル化・マルチメディア化等の高度情報化への対応策、視覚障害者情報ネットワーク(ないーぶネット)の充実、情報提供施設・団体の運営および従事者の専門性の向上、視覚障害者の情報アクセスと著作権等の諸課題を検証・研修し、情報サービスの標準化を図るとともに、施策への反映を図り、もって視覚障害者の社会参加促進とノーマライゼーションの実現に資することを目的とします。

**主催** 社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会 情報サービス部会  
全国視覚障害者情報提供施設協会(全視情協)

**主管** 全国視覚障害者情報提供施設協会近畿ブロック  
財団法人 兵庫県盲人福祉協会 兵庫県点字図書館  
神戸市立点字図書館

**後援** 厚生省  
(予定) 文部省  
兵庫県  
神戸市  
社会福祉法人 日本盲人会連合  
社会福祉法人 日本盲人福祉委員会  
全国盲学校長会  
社団法人 日本図書館協会  
財団法人 鉄道弘済会  
各報道機関・社会福祉関係機関

- 協 賛 J B S 日本福祉放送  
近畿視覚障害者情報サービス研究協議会
- 期 日 平成11年10月13日(水)～10月15日(金)
- 会 場 舞子ピラ  
〒655-0047 神戸市垂水区東舞子町18-11  
TEL 078-706-3711 FAX 078-706-2212
- 事務局 神戸市立点字図書館  
〒650-0016 神戸市中央区橋通3-4-1  
TEL 078-351-0942 FAX 078-351-4781

## 会議の内容について

今大会の会議の主な内容を紹介します。

施設長、点字担当者、録音担当者、サービス担当者の出席をお待ちしています。

なお、今大会では、全日程参加のほか、

13日(水)朝から14日(木)昼までの参加(主として施設長)

14日(木)朝から最後まで参加(主として職員)

というように分割出席できるようにプログラムを組み立ててありますので、施設の事情に合わせてご参加くださるようお願いいたします。

### 1. 施設長会議(13日 10:00～11:30)

全視情協加盟の施設長の方々に、全視情協の現状と課題を知っていただき、また、平成12年度の事業等について協議します。なお、この会議は、全視情協の「臨時総会」とさせていただきますので、施設長の出席をお願いいたします。

### 2. 講演1(13日 11:30～12:30)

「社会福祉基礎構造改革と情報提供施設」のテーマで、厚生省に講演していただきます(交渉中)。厚生省の最新の情報を直接聞くことができますし、その後の協議にも関わる内容ですので、施設長はもちろん、職員の方も聴講してください。

3. 全体会 1 (13日 14:40~17:20)

「情報提供施設の事業のあり方について」

サービス委員会前委員・工藤孝雄氏(日本ライトハウス盲人情報文化センター)に、第16回(平成9年度)の実態調査結果の報告をしていただき、情報提供施設の事業の現状を共通認識し、その上で、施策要望も視野に入れた「今後の情報提供施設の事業のあり方」について具体的に討議します。この際、厚生省にも助言者として出席をお願いする予定です。

4. 分科会 (14日 9:00~12:00)

(1) 第1分科会 「DAISY録音図書製作への取り組み」

録音委員会が担当して、今後、音声情報の主流になるデジタル録音図書製作・提供を、視覚障害者情報提供施設がどのように取り組むかについて研修します。すでに本格的に取り組んでいる施設、取り組みを始めていろいろな問題にぶつかっている施設、これから取り組もうとしている施設、どう取り組んだらいいか迷っている施設など、各施設の録音担当者の参加をお待ちしています。「デジタル録音図書製作基準」(8月中に作成され、全施設配布予定)についての説明や質疑応答の時間も予定しています。

(2) 第2分科会 「点字表記の問題点」

点訳委員会及び全視情協代表の日本点字委員会委員(3名)が担当し、点字表記の問題点について協議します。今年5月に開かれた日本点字委員会総会で、「日本点字表記法1990年版」の小規模改訂を2001年度中に行うことが決定し、編集委員会が組織されました。「日本点字表記法1990年版」が改訂されると、それに準拠して製作した「点訳のてびき」も当然改訂する必要が出てきます。この機会に、各施設の点字担当者が現行の表記法及び「点訳のてびき」の問題点について協議し、その結果を表記法の改訂や、「点訳のてびき」の改訂に反映させたいと考えています。多くの関係者の参加をお待ちしています。

(3) 第3分科会 「情報提供施設の管理・運営を考える」

初日の講演及び全体会1(「情報提供施設の事業のあり方について」、主として情報提供施設の事業活動について)で討議された事業活動を効果的に展開するために、「これから情報提供施設をどのように管理・運営すべきか」について、全国の各施設の管理及び運営、職員組織及び管理、財務その他の実態をふまえて、施設長・責任者等経営の立場からいろいろ討議します。特に、当面する諸問題については共通認識を得るとともに、その具現策について協議します。この分科会では、厚生省担当官を助言者としてお迎えする予定です。

## 5. 講演 2 (14日 13:00~14:30)

静岡県立大学教授・石川 准氏(視覚障害者)を講師に招き、「障害者と著作権」のテーマで、現行の著作権法の問題点及び著作権法改正の動きなどについて講演していただき、日常の業務の中での著作権に関する質問に答えていただきます。また、日頃知る機会の少ない聴覚障害者の情報アクセスと著作権についてもお話ししていただく予定です。今後、著作権法について全視情協として取り組む足がかりにしたいと思いますので、ぜひご参加ください。

## 6. 全体会 2 (14日 15:00~17:00)

全視情協のネットワークの要である「ないーぶネット」の将来像について、全員で協議します。来年9月を目標に開発が進められている新システムの概要の報告をもとに、将来のマルチメディア対応も視野に入れながら、望ましい将来像について大いに議論しましょう。

## 7. 自主学習会 (14日 19:30~21:00)

## (1) 「レコーディング・マニュアルの改訂について」

デジタル録音に対応したマニュアル作りを今後進めていくために、録音委員会が各施設の録音担当者からいろいろなご意見やご提案を伺う場にしたいと思っています。録音担当者の方はどうぞご参加ください。

## (2) 「点字表記について」

分科会では発言できなかったことや、点字表記に関する質問などについて自由に話し合う場にします。日頃、ボランティアへの説明や対応に追われている職員同士、情報や意見を大いに交換しましょう。

## (3) 「ないーぶネットの活用について」

ないーぶネットは、点字データや点訳図書目録に加えて、録音図書のデータ及び目録、さらに各施設で所蔵する目録全般をアップすることで、重複製作の回避ならびにサービス全般の向上を目指しています。この学習会では、サービス窓口の担当者及び録音担当者の方々に出席していただいて、「ないーぶネットの活用」について、具体的な説明をいたします。ないーぶネットに1度もアクセスしたことのない方々もぜひご参加ください。

(大会プログラムはP24に掲載しています。)

## 「介護保険制度における通知等の点訳等の仕組み」

-- 厚生省、日盲委に委託 --

介護保険制度の情報等を視覚障害者ケアマネージャーに伝達する方法として、厚生省は当面、点字による情報提供を行う模様である。この件について、去る8月2日、日盲連と日盲社協は厚生省に出向き、話し合いを行った。

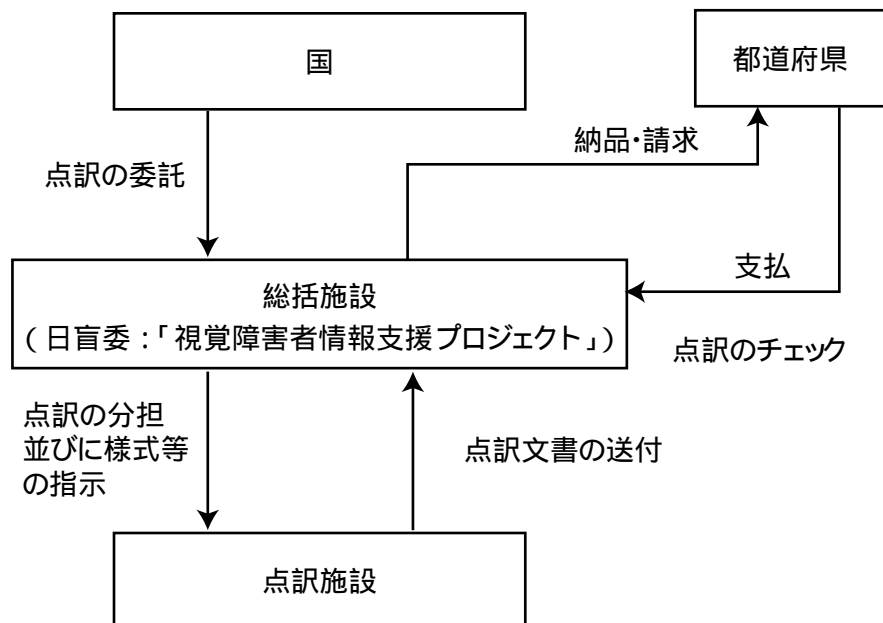
その結果、日盲委（日本盲人福祉委員会）が総括施設として受託する見込みとなった。これを受け、日盲委は日盲連および日盲社協と「視覚障害者情報支援プロジェクト」を編成することで合意した。日盲社協は日盲委の要請を受ける形で、8月11日（火）に三役会議を開き、正式に機関決定を行った。

当面は点字情報のみで、実際の点字出版事業は、プロジェクトが点訳施設を数施設選定し、共同点訳の形で進められる予定。

### 事業概要

- 1 厚生省委託事業名称 「介護保険制度における通知等の点訳等の仕組み」
- 2 受託法人（総括施設） 社会福祉法人 日本盲人福祉委員会（理事長 村谷昌弘）
- 3 実施主体 日盲委によるプロジェクト  
プロジェクト名 「視覚障害者情報支援プロジェクト」  
委員長 蒔苗 実（日盲連・常務理事）  
副委員長 高橋 実（日盲社協・点字出版部会長）  
委員 多田威夫（日盲委・理事、事務局長）  
牧田克輔（日盲連・情報部長）  
一柳直治（日盲連・出版所長）  
小谷野奎一郎（日盲社協・常務理事）  
高橋秀夫（日盲社協・点字出版部会 副部会長）  
田中正和（日盲社協・点字出版部会）  
川越利信（日盲社協・情報サービス部会長）  
藤野克己（日盲社協・情報サービス部会 副部会長）
- 4 点訳施設 プロジェクトにより選考

5 点訳等の仕組みの流れ図



新会員紹介

デジタル編集協議会「ひなぎく」

デジタル編集協議会「ひなぎく」は、平成9年度の全視情協大会（長崎大会）で加盟が承認されたボランティア・グループです。

所在地：〒460-0002

名古屋市中区丸の内1-15-28

ナビシティ丸の内502号

連絡先：TEL 052-220-3292

FAX 052-220-0191

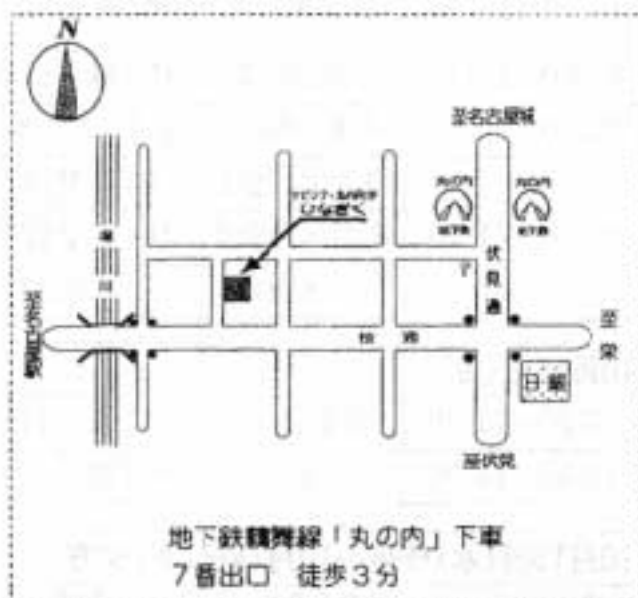
代表者：中村捷一

グループ結成：1998年1月15日

活動内容：音訳、アナログ録音物のデジタル編集、ボランティアへの編集技術指導と研修会の開催およびアフターケア

活動時間：10:00～16:00

休み：土曜日、祝日・年末年始



## 第25回全国視覚障害者情報提供施設大会日程

時 間	会議等	会 場	会 議 の 内 容
10月12日(火)			
15:00~18:00	理事会	3F「藤」	
10月13日(水)			
10:00~11:30	施設長会議	3F「舞子」2	(受付 9:30~)
11:30~12:30	講 演 1	3F「舞子」2	「社会福祉基礎構造改革と情報提供施設(仮題)」 (講師：厚生省交渉中)
12:00~13:30	受 付	3Fホワイエ	
13:30~14:10	開 会 式	3F「舞子」1	
14:10~14:30	機器展示品説明	3F「舞子」1	展示内容の説明
14:40~17:20	全体会 1	3F「舞子」1	情報提供施設の事業のあり方について (第16回実態調査結果から学ぶ) 報告(サービス委員会)とディスカッション
17:20~18:00	チェックイン・休憩	3Fホワイエ	
18:00~20:00	交 流 会	2F「六甲」	
10月14日(木)			
9:00~12:00	第1分科会	2F「六甲」1	「DAISY録音図書製作への取り組み」(職員研修)
	第2分科会	2F「六甲」2	「点字表記の問題点」(職員研修)
	第3分科会	2F「六甲」3	「情報提供施設の管理・運営を考える」(施設長研修)
12:00~13:00	昼食・休憩	3F「舞子」2	
13:00~14:30	講 演 2	3F「舞子」1	「障害者と著作権」 講師：石川 准氏(静岡県立大学教授)
15:00~17:00	全体会 2	3F「舞子」1	「ないーぶネット」の将来像
17:30~19:30	夕食(各自)	1F「サントパ」他	
19:30~21:00	自主学習会1	2F「六甲」1	レコーディングマニュアルの改訂について
	自主学習会2	2F「六甲」2	点字表記について
	自主学習会3	2F「六甲」3	「ないーぶネット」の活用について
10月15日(金)			
9:00~11:30	全体会 3	3F「舞子」1	分科会報告及び各委員会報告等
11:30~12:00	閉 会 式	3F「舞子」1	
10月13日(水)午後~10月14日(木)夕方			
機器展示(拡大図書を含む)		3F「須磨」	自由見学